

二〇二〇年二月二十六日

産土の臥龍の松も菰巻きす

なつき

楼門の紅葉を仰ぐ結願寺

よし子

電飾の映る川面に鴨浮寝

素 秀

時として反す木霊や山眠る

わかば

吹き抜けのビルのロビーに大聖樹

よう子

薄日さす明智の寺の冬桜

うつぎ

すれ違ふ車新雪堆く

こすもす

道幅を狭め商ふ歳の市

わかば

縄張りのあるごとく鴨陣分かつ

せいじ

石切場秀枝を剪りて松迎へ

素 秀

手をおけば芯まで凍る力石

小 袖

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二〇年二月二十七日

柚子風呂に肩の重荷の抜けるごと

うつぎ

枯葎半ば埋もれて丁目石

はく子

初雪やふるさと便の届きたる

よし子

しぐるるや明智の郷は穴太積

うつぎ

百選の棚田を抱く枯木山

よう子

年の暮動く歩道を駆くる人

かかし

寒禽の声飛礫めく神の杜

なつき